

ハンセン病と女性たちの暮らしを考える 国立ハンセン病資料館見学と多磨全生園人權の森巡り



ハンセン病に対する偏見や差別は、私たちの内にある問題なのかもしれません。

学芸員の解説や展示等を手掛かりにハンセン病と女性たちの暮らしについて考えましょう。偏見や差別のない社会を実現するにはどうすればよいのか。私たちは何ができるのか。考えてみましょう。

日時 2017年 **10月14日(土)** 13時～

会場 国立ハンセン病資料館 (042-396-2909)

定員 25名 (要申込/先着順)

集合 国立ハンセン病資料館ロビー/12時45分<厳守願います>

●西武池袋線 清瀬駅南口より 西武バス乗車「久米川駅北口行」で約10分—国立ハンセン病資料館前下車

●西武新宿線 久米川駅北口より西武バス乗車「清瀬駅南口行」で約20分—国立ハンセン病資料館前下車

資料代 300円

※交通費は各自でご負担願います

申込先 わたなべ (TEL 042-467-2089) ※参加希望者には詳しい道順をご案内します



プログラム紹介

第1部 (13時～)

国立ハンセン病資料館見学

- ・ガイドンスビデオ鑑賞
- ・ハンセン病資料館見学

(学芸員の解説つき)

- ・質疑応答・懇談・・・終了

第2部 (15時40分～)

多磨全生園「人權の森と史蹟めぐり」

- ・自由散策/自由解散



▲母娘遍路像 (国立ハンセン病資料館) : ハンセン病回復者の中には、入院前に四国遍路を経験した人が少なくありません。病気を知られず、迫害から家族を守るためには、遍路にならざるを得なかったからです。(中略) 世界に例をみないこの風習は、社会的には偏見・差別がいかに人を非人間的境遇に追いやるものであるかを示すものであります(中略)。わが国のハンセン病患者が辿った苦難の人生を歴史の事実として遺すためこの像は建立されました。空を見上げる二人は、いつか必ず訪れるハンセン病の治る時代の到来をじっと目を凝らして見つめているのです。(碑文より引用)